

# 2010ほしぞら合宿当での夜空と見どころ2

## 木星

マイナス3等級で輝く木星は太陽のまわりを約12年で1周します。地球はずっと内側を回っているのです、私たちから見ても木星は12年かけて星々の中を1周しているように見えます。目安としては「黄道十二星座の中を毎年1つずつ移動している」と考えるとよいでしょう。今年2010年の木星は、秋の「みずがめ座」と「うお座」の境界付近（うお座側）にあります。黄色くてとても明るいので街明かりの中でも簡単に見つかることでしょう。木星が真南の空に昇る時刻（南中時刻）を挟む約6時間のうちは、高度が30度を超えているので観測に向いています。（アストロアーツHPより）

木星の南中時刻は10月9日午後10時30分前後になると思います。



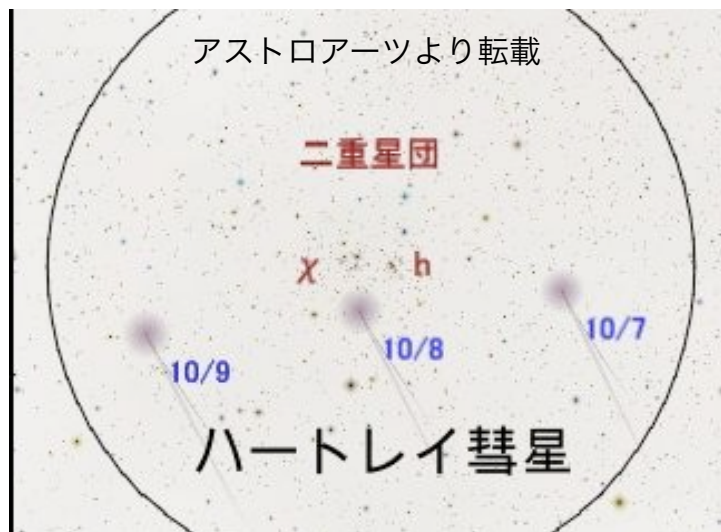
## 天王星

今現在木星のそばにあり双眼鏡なら簡単に導入出来ます。5.7等級と暗いですがはっきりと確認できると思います。タカハシの10cm屈折望遠鏡の中、高倍率でどのように見えるかぜひ試してみたいです。

## ハートレイ彗星

10月8-9日ごろペルセウス座の二重星団（ $h\chi$ ）の近くを通ります。双眼鏡なら同一視野に入るので簡単に探せるので導入は簡単です。ですが彗星自体は5等から6等級と明るくはなく、小さいので肉眼での観望はむずかしいと思われます。

10月7日早朝、8×42mmの双眼鏡では判別出来ませんでした（@平尾台）



## メシエ天体

いろいろな星雲、星団があり見応えのある物も多いのですが、代表的なアンドロメダ銀河（M31）は絶対に外せないでしょう。清和高原で天候条件が良ければ肉眼でも確認出来ます。双眼鏡でみると某氏が表現された焼き芋のようにも見えます。

また、おうし座のプレアデス星団（M45）は、すばるの呼び名でも知られています。こちらは肉眼でも5-7個の星の集まりが見えますが、ぜひ双眼鏡でも観望してください。おうし座にはヒアデス星団（メシエ天体ではない）もあります。アルデバランの近くのV字形がそれです。別名釣鐘星

ペルセウス座の二重星団（ $h\chi$ ）もメシエ天体ではないのですが、双眼鏡で見ると星の集団が二つ寄り添っていて見応えは十分です。

まだまだ見てみたい天体は沢山あるのですが、上記の星雲や星団をじっくりと肉眼、双眼鏡、望遠鏡と見比べてみるのも面白いと思います。

